

サクセスストーリー

日立ストレージソリューション

稼働中

Zuellig Pharma Asia Pacific社

業種 ヘルスケア:薬品流通

ソリューション ビジネス継続/ディザスタリカバリ、マネージドサービス

ハードウェア — Hitachi Universal Storage Platform、Hitachi Network Storage Controller model NSC55、Hitachi WorkGroup Modular Storage model WMS100

ソフトウェア — Hitachi TrueCopy software、Hitachi ShadowImage Software、Hitachi Universal Volume Manager、Hitachi Protection Manager software、Hitachi Data Protection Suite, powered by CommVault



「Zuellig Pharma のニーズを理解し、その多様な要件に対応しうる、長期的な戦略的テクノロジーパートナー兼ビジネスパートナーが必要でした。日立データシステムズ は IT 業界で実績があり、その能力から判断して最適なパートナーです」

John Dickson
CIO
Zuellig Pharma Asia Pacific



ZUELLIG PHARMA
ASIA PACIFIC

Zuellig Pharma が、アジア太平洋地域で日立データシステムズを活用し、効率性向上とビジネスリスクの緩和を達成

日立データシステムズを戦略的 IT パートナーに選んだ Zuellig Pharma は、日立データシステムズによるマネージドサービスアプローチを採用して IT インフラを刷新し、現在および将来の運用と戦略に関連するニーズに対応しています。日立データシステムズが開発した Services Oriented Storage Solutions に基づく新しいインフラにより、アジア屈指の医療ソリューションプロバイダーは、新しいビジネスチャンスにつながる柔軟性を獲得しています。

ヘルスケア業界のリーダーである Zuellig Pharma Asia Pacific (Zuellig Pharma) は、「予防は治療に勝る」という古来の知恵を強く信奉している会社です。ビジネスの面では、世界的な医療サービス巨大企業である同社は、ビジネス継続性対策と緊急時対策を通じてリスクを未然に防いでいます。Zuellig Pharma が追求する業務効率とリスク抑制戦略で、IT は重要な役割を果たしており、これは AsiaRx、Zip-online、および Central Hub ネットワークという 3 つのミッションクリティカルな IT 環境で構成されています。同社のシステムは、1 つの 10/100 Mbps ネットワークに接続された合計 42 台の Intel/Sun Solaris サーバーおよび Microsoft® Windows 98 ワークステーションで稼働しています。重要なすべての情報は、主として直接接続のストレージデバイスで保管し、Hitachi 9570V モジュラーストレージシステムおよびテープライブラリにバックアップしています。電子メールを主力とする同社の通信プラットフォームはあらゆる

地域に広がり、10 か国を対象とする 18 の Exchange ライセンスによる 19 台の電子メールサーバーで構成されています。

ビジネスの成功に対する IT の戦略的重要性と、より強力に管理しやすい IT の必要性を考慮し、Zuellig Pharma は 2005 年に「インフラ統合とアウトソーシング」プロジェクトを開始しました。このプロジェクトの計画は遠大かつ広範囲であり、具体的には次のとおりです。

- IT インフラの刷新により、スケーラビリティの向上、システムセキュリティの強化を図るとともに、危機的状況が発生した場合にも安定性を維持できる、データ継続性のための新たな対策の導入。
- 複数のサイトが関与する災害復旧プランにより、いつでも業務を続ける予備の IT インフラを確保。すべての情報をリアルタイムでバックアップするインフラにより、危機的状況が発生しても情報の損失を最小限に抑制。
- 各部門で個別に運用していた電子メールシステムの統合。

同社に必要なのは、これらの計画に即して現行のインフラを刷新するための幅広い専門知識、長期のビジョン、および技術的ノウハウを備えた戦略的 IT パートナーでした。この条件に合致するのが日立データシステムズでした。

「Zuellig Pharma のニーズを理解し、その多様な要件に対応しうる、長期的な戦略的テクノロジーパートナー兼ビジネスパートナーが必要でした。日立データシステムズは IT 業界で実績があり、その能力から判断して最適なパートナーです」と、Zuellig Pharma Asia Pacific の CIO である John Dickson 氏は語ります。

ソリューションの管理

日立データシステムズは Zuellig Pharma の多岐にわたる厳しい要件を綿密に検討した結果、Services Oriented Storage Solutions をベースとする、アウトソーシングによるインフラソリューションを提案しました。新しいインフラは、同社のあらゆる情報を保存するストレージインフラを最適化し、ビジネスと IT の整合性をとることによりビジネス目標の達成を可能にし、ストレージ管理を簡易化して重要な情報の迅速かつ容易な保存と検索を可能にするだけでなく、アプリケーションと予算に関する要件にも対応するものでした。このソリューションでは、それぞれ固有の要件のある Zuellig Pharma のさまざまなビジネスアプリケーションを最適化する、緊密に統合されたハードウェア、ソフトウェア、およびサービスも導入されました。これらのアプリケーションは複数のプラットフォームがホストで、それぞれ異なるビジネス要件やユーザーの期待水準に対応しています。日立データシステムズが提供する優秀なサービスにより、Zuellig Pharma のビジネスと IT インフラの間にリンクが確立され、成長力の維持に貢献しています。同時に、品質管理システムと整備された業務手順/運用プロセスが導入され、医療サービス企業にとって懸念事項となる、IT インフラのアウトソーシング

に対する不安感を払拭し、インフラの可用性、セキュリティ、及びスケールビリティを確保しています。

効率性への正しい処方

この新しいインフラは、6つの要素（データセンターの再配置、インフラ技術の刷新、インフラの統合、ビジネス継続、電子メールの統合とアウトソーシング、電子メールコンテンツのアーカイブ）で成り立っています。日立データシステムズはパートナー企業 Atos Origin および KAZ Computer Services が提供する2か所の物理拠点に新しいインフラを再配置することにより、Zuellig



「日立データシステムズのおかげで、当社のITチームは運用やメンテナンスの問題に束縛されることなく、システム開発や機能の拡張など、付加価値のある収益性の高い業務に専念できるようになっています」

John Dickson
CIO
Zuellig Pharma Asia Pacific

Pharma のビジネス継続性プランを改善しました。KAZ のデータセンターは、電子メールの業務環境、Zip-online のフェイルオーバーサイト、および災害復旧サイトとしても兼用されています。これら2社の日立データシステムズのパートナー企業は、最高の設備とサービスで Zuellig Pharma のミッションクリティカルなビジネスシステムとデータの保護、維持、および監視にあたっています。Zuellig Pharma のインフラ全体で、パフォーマンスを向上させるための技術的な改良が行われました。これには、高速で信頼性と可用性の高いデュアルパス LAN ネットワークの構築、最新型ブレードサーバーの導入、新しい Sun Solaris サーバーの増設、バックアップとクラスタリング用の Dell サーバーの設置、

および Microsoft Exchange 統合とクラスタリング用の高性能な新しい電子メールサーバーの導入が含まれます。パフォーマンスボトルネックの防止と迅速な解消のため、高度な監視ツールも導入しています。

IT の免疫強化を目指して

この新しいインフラでは、日立のストレージプラットフォーム、Hitachi Universal Storage Platform および Hitachi Network Storage Controller モデルで Zuellig Pharma のあらゆる情報を保存し、確実な保護と容易な管理を実現しています。それと同時に、ストレージ仮想化によって IT リソースの利用

効率を最大化し、投資を最適化するとともに可用性を向上させています。Zuellig Pharma の業務はミッションクリティカルであるため、危機的な状況が発生しても迅速に復旧できるよう、あらゆる情報を完全にバックアップし、回復可能な状態しておく必要がありました。日立データシステムズは、2か所の災害復旧サイトを使用する高度なバックアップおよび回復ソリューションを設計しました。日立データシステムズが開発した Hitachi TrueCopy Synchronous ソフトウェア技術を採用し、これら2か所のサイト間で I/O の一貫性の保証のある複製処理により、情報がリアルタイムで同期しています。これにより、どちらか一方のサイトがダウンした場合にもビジネスを継続できるという、さらなる保証が Zuellig Pharma

にもたらされました。通信についても、可用性、セキュリティ、管理性を向上させるための改善が行われました。日立データシステムズは、Zuellig Pharma の各地の拠点に分散されていた電子メールインフラを一元化し、香港にあるデータセンターに統合しました。このアプローチの結果、Zuellig Pharma は今後の成長に伴うニーズの拡大にうまく対処できるだけでなく、従業員が電子メールを安全に利用できるようになっています。それだけでなく、電子メールの統合によって、Zuellig Pharma はさらに次の一步を踏み出すことが可能になりました。すべての電子メールのアーカイブです。Universal Storage Platform、Network Storage Controller モデル NSC55、Hitachi Workgroup Modular Storage モデル WMS100、TrueCopy ソフトウェア、および Hitachi ShadowImage Heterogeneous Replication ソフトウェアのほか、McDATA スイッチおよび Quantum Tape Library で構成されるプラットフォームを使用して、同社では電子メール通信を効率的かつ容易に保存できるようになりました。

「コンプライアンスに関連する今後のニーズを考慮すると、これは必要不可欠でした」と Dickson 氏は説明します。「たとえば SOX 法 (Sarbanes-Oxley Act) では、何年前のものでも、重要な電子メールを迅速に検索できることが要求されます」

ビジネスの再活性化

新しいインフラを立ち上げた結果、Zuellig Pharma ではサーバー台数を42から13に削減することに成功しました。日立データシステムズの高性能で拡張性に優れたソリューションによりストレージ全体を統合し、災害復旧サイトの設定によって顧客の情報を最大限に保護できるようになりました。また、電子メールの統合とアーカイブによってメール管理を改善しました。

「日立データシステムズのおかげで、当社の IT チームは運用やメンテナンスの問題に束縛されることなく、システム開発や機能の拡張など、付加価値のある収益性の高い業務に専念できるようになっています」と Dickson 氏は述べています。

アウトソーシングという選択肢は、Zuellig Pharma に経済的なメリットももたらしました。IT インフラを社内管理する場合と比べて、TCO が大幅に削減されると同時に、設備支出も大幅に節約されています。

このような全体的なコスト削減効果により、社内でのシステム開発、新しい市場機会の活用、カスタマーケアの改善などに予算を振り分けられるようになりました。

「当社では新しいインフラの導入により、ビジネスリスクを管理する能力が強化されただけでなく、新しいビジネス機会を活用し、着々と増えつつある当社顧客の多様なニーズに対応する体制が整いました」と Dickson 氏は結びました。